

令和4年度

春日市児童生徒の
「市民性の育ち記録集 Vol I」



【春日小「自転車教室」】



【春日東中「市議会アタック」】



【春日野中ブロック4地区合同
「牛頸川清掃」】

令和5年3月
春日市教育委員会



はじめに

春日市は、平成17年に全国に先駆けコミュニティ・スクールを導入しました。令和4年度は、市制50周年を迎えるとともに、コミュニティ・スクール導入18年目を迎えました。

春日市のコミュニティ・スクールでは、児童生徒の「市民性」の育成を目指し、学校、家庭、地域が一体となって「共育」基盤形成に取り組んでいます。各学校や地域で行われている特色ある協働活動は、児童生徒の市民性を育てています。

この「市民性の育ち記録集」には、児童生徒が市民性を発揮している場面や言葉を数多く収めています。子どもたちの素直な言葉の中に鮮明に表れた市民性の育ちの様子を、一人でも多くの方に共有できればと考えております。

なお、この記録集は、今回初めて発刊しましたが、コミュニティ・スクールの継続性及び発展性に寄与するものとして、今後も発刊してまいります。

「市民性」とは、「よりよい地域社会実現のために、地域に関わろうとする意欲や行動力」と定義しています。

この市民性を「地域に対する関心度」と「地域情報に対する関心度」の2側面から捉えています。

市民性の育ちについては、子ども自身による自己評価を、通知表に添付する等により、家庭へもお知らせしています。また、市民性の育ちの程度を学校関係者にも伝えています。

令和5年3月
春日市教育委員会

目 次

○ はじめに	P 1
○ 目 次	P 2
1 春日小学校	P 3
2 春日北小学校	P 7
3 春日東小学校	P 9
4 春日原小学校	P12
5 春日西小学校	P14
6 須玖小学校	P16
7 春日南小学校	P22
8 大谷小学校	P24
9 天神山小学校	P28
10 春日野小学校	P31
11 日の出小学校	P32
12 白水小学校	P34
13 春日中学校	P37
14 春日東中学校	P39
15 春日西中学校	P42
16 春日南中学校	P46
17 春日野中学校	P48
18 春日北中学校	P51

総合的な学習の時間「だれもが住みやすい町にするために」の学習を通して

春日市立春日小学校 第4学年 教諭 八木由佳

(1) 学習の概要

この学習は「車いす体験やアイマスク体験などの様々な体験を通して、障がい者や高齢者への正しい理解と思いやりの心もち、公平・公正な態度で関わっていこうとする態度を身につけることができる。」ことをねらいとしている。まず、導入として福岡県の福祉教材「ともに生きる」の挿絵から、町には大人や子供、高齢者、車いすに乗った方、白杖を持つ目が不自由な方、手話で話す耳が不自由な方など、様々な人が暮らしていることに気づかせる。また、「あおぞら2」の「気になるマーク」で福祉に関する様々なマークを知り、その意味について考え、「福祉」という言葉の意味をおさえる。

次に、少しでも体が不自由な方や高齢者の力になれるように、①アイマスク体験 ②車いす体験、③高齢者体験を行う。特に車いす体験は春日市の社会福祉協議会の方に協力していただき、車いす 10 台を借り、様々なコースを車いすで進むことにより、車いすに乗っている時の気持ちや、介助のこつを学んだ。

最後に、学習のまとめとして、地域を歩いてまわり、だれもが住みやすい町にするための工夫や、もっとよりよくするために変えていった方がよいことを見つけ、Google スライドや、Google ドキュメントにまとめた。自分たちの地域を福祉の視点から見直し、良さや課題を見つける活動が、市民性の醸成にもつながると考えたので、この活動を本年度から仕組んだ。



(2) 地域を見回った時の児童の感想 (Google ドキュメントによる感想文)

地域を歩いてまわり、だれもが住みやすい町にするための工夫や課題を見つけた日に、Google ドキュメントで気づいたことや感想を書かせた。以下の 点は児童が提出した感想文である。

4年1組 小野心愛

わたしが一番びっくりしたのは、パレット館にあるひじょうかいだんのとりにあった、すべり台のようなものです。災害がおきたときに体の不自由な方がすぐにひなでできるから、工夫されているなと思いました。ほかに、地いきの地図があったり、かんばんの文字が英語でも書いてあったりして、外国人の方や高齢者などにとって住みやすくなっているなと気づきました。高齢者や外国人、障がいをもっている方など以外にも、子供やふつうの大人などがあぶなくないように、歩くところにさくがあったので住みやすいと思いました。

学校の職員室前のげんかんにほじょ犬のマークやAEDのマークなどがあったので、本当にあるんだと思っておどろきました。

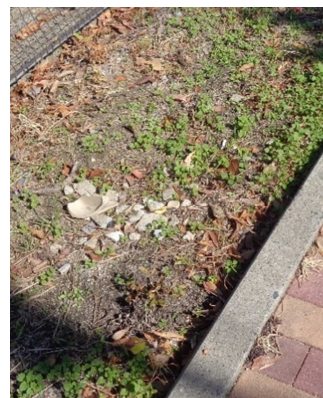
私がおもしろい人だったら、バス停にベンチをつけたいです。今まで考えたこともなかったけど、いろんなところに工夫があって住みやすいなと思いました。これからも自分たちの町の工夫に気づいていきたいです!



4年1組 辻唯花

私は町に瓦礫が何個かあったり、段差や急な坂道があることを知り「危ないな」と思いました。家に帰って、どうしたらだれもが住みよい町になるのか考えた時に、前の地域のごみ拾いの参加募集の紙がありました。

そこで「ごみ拾いをすれば少しでも地域が住みよい町になるんじゃないかな」と思いました。でも今はコロナウイルスであまり参加募集がないので、地域のイベントじゃなくても自分からやるのが大事なことだと思いました。小さいことでも、行動すれば、ごみがへり、みんなが安全に気持ちよく過ごせると思いました。



4年1組 落司絵里奈

わたしが学校の周りを見てこういうのは大切だなと思ったものは2つあります。

1つ目は、点字ブロックです。目が不自由な人にとっては、大切です。

2つ目はまわりの店などが書かれてある地図です。どんな人でも周辺のことがよくわかります。また、初めてこの町に来た人にも、この町のことがわかります。

しかし、こういうところは危ないなと思ったところもあります。道路と歩行者の間の段差です。車いすの人はこの段差を上るのが大変です。また、目が不自由な方が段差があると気づかなかつたら、転んでしまうリスクもあります。

だから、もし、わたしが道路を変えられるとしたら、段差を少しななめにしたいです。



このように、「この横断歩道は足が不自由な方も安心して渡れるね。」「ここの段差は車いすの人にとっては危ないから、変えられるといいね。」「高齢者体験で、体が重いと立っているのも大変とわかった。それを思い出すと、バス停にベンチがあるといいね。」など、車いす体験などを生かして、地域の工夫や課題を見つけていく姿が見られた。子供が福祉の視点から身近な地域を見直すことで、自分たちの町の良さに気づき、自分たちの町をもっとよりよいものにしていこうとする、「市民性」が育っていくことを実感した。次年度以降は、この活動に地域の方や保護者の参加も促したり、子供達が見つけた工夫や課題を市役所などに提出したりするなど、さらに地域と関わりながら学習できる活動を仕組んでいく。



題名 「地域の方との関わりを知って」

5年2組 名前 佐藤 しの

「学校は先生や生徒だけでできているんじゃないんだ」と私は驚きました。今までは、コミュニティ・スクールときいてもピンときませんでした。自分達と関わってくださっている地域の方々やその活動を思い出してみ、沢山の方々が私達の学校生活に関わってくれていることを知りました。

毎朝、横断歩道に立ってくださっている、見守りの会の方々はこの5年間立っていない日がほとんどないそうです。毎日風が強い日でも、雨の日でも立ってくださっています。おやじの会の方々は自然教室のとき火おこしを手伝ってくれたり、追跡ハイクのチェックポイントに立ってくださっていました。4年生での自転車教室ではみんなが安全に自転車に乗れるように教えてくれて、しかも10年も続けていらっしゃることを知って驚きました。他にイベントなどをたくさん開催してくれて読み聞かせ、お祭りなども全て自分たちで開催してくれて、みんなが楽しむことができています。

私は、そんな地域の方に感謝の気持ちを伝えたいので、毎朝見守りの会の方が立っていらっしゃる時はおはようございます、とちゃんと挨拶をして、地域の方に学校の廊下であったときは、挨拶をしようと思います。そして、もし大人になったときに春日に住んでいたら、見守りの活動などをして今の地域の方のように学校の生徒を支えることができたかなと思います。



題名 「明るい社会にするために」

6年 大塩 明日香

私たちが暮らしている地域では、様々なところでいろいろな人に守られています。例えば、朝の登校を見守ってくれている地域の方、警察官の方々です。「行ってらっしゃい」と声をかけてくださったり、「気を付けてね」と声をかけてくれたりしながら私たちの安全を見守ってくれています。このような方々がいるおかげで、私たちは安全に学校に通うことができます。学校に通う私たちだけでなく、サラリーマンの人、高校生や大学生、いろんな人に「おはよう」「行ってらっしゃい」と声をかけてくださっています。挨拶を返す人もいれば返さない人もいます。

私はこの「おはよう」「行ってらっしゃい」の一言でも犯罪や非行をなくすための力になると思います。なぜなら、その一言で、地域社会が明るくなると思ったからです。例えば、朝から見守ってくださっている方のあいさつがなかったとします。すると、地域社会が朝から暗くなると思います。でも明るいあいさつがあることで気持ちよくなり、明るい地域、つまり犯罪や非行のない社会が作り上げられると思います。明るい社会になると、心の中が暗くなって落ち込んでいたり、イライラして犯罪をしようとしている人も「ダメなことだ。人間としていけないことだ」と気づけるようになるのではないのでしょうか。

朝、私たちの安全を見守ってくださっている方がいるおかげで犯罪や非行防止につながると思います。それに、「行ってきます」「おはようございます」とあいさつを返す人が増えるだけで、より明るく活気がある地域社会になると思います。私も、明るい社会をつくる一員になりたいです。

この他にも、春日市で行われているクリーン大作戦に取り組むだけでも犯罪や非行が減ると思います。なぜなら、街をきれいにすることで、心が落ち着いて穏やかな気持ちになるからです。すると、あいさつと同じように自分の間違いに気づくことができると思います。それに、クリーン作戦は、自分の家の周りだけでなく近くの家の周りもきれいにします。だから、あいさつに加えて、近所の人と協力することで今まで以上にもっと仲がよくなります。そうすることで、いざというときに助け合えるようになるのです。

私は、このような取り組みを春日市から福岡県へ、そして九州、全国へ広げていきたいです。そうすると、私が住む春日市だけでなく、全国が明るく活気があって犯罪や非行がなくなっていくと思います。そしていつか、日本中が犯罪や非行がない本当の意味で平和な国になってほしいと思います。



春日市立春日北小学校「地域クリーン活動」の取組

～5, 6年生による地域貢献活動～

春日北小学校5, 6年生は地域連携カリキュラムの一つとして、「地域クリーン活動」を毎年行っている。これは、6年間を通して地域から学び、地域への愛着を育んできた子どもたちが、地域の一員として、地域に貢献する活動を通して、地域に関わろうとする意欲や行動する力を育て「市民性」の育成を目指している。

1 「地域クリーン活動」までの準備

①自分の地域を見直し、地域の一員として何ができるのか話し合う。

これまでの地域行事の写真や汚れが目立つ地域の施設の写真を見ながら自分たちが地域に何が貢献できるか一人一人が考え、改めて課題意識を持つことから始めた。これまでの様々な地域行事などの活動に参加してきたことや6年生は昨年度の「地域クリーン活動」を振り返りながら、今回自分たちが行動できることはないか話し合った。そして各自が自分のめあてを立てた。キーワードは日頃、御世話になっている地域の方々への「恩返し」という言葉だった。

自分たちで行動するため実行委員を5, 6年各クラス3地区から一人ずつ選び、実行委員を中心に進めていった。

②自治会長さんへ取組についての相談を行う。

実行委員が地域の施設について調べ、汚れている場所をきれいにするために各自治会長さんに以下のことを相談しながら、清掃の仕方の計画を立てた。【写真1】

- ・清掃場所候補と清掃内容について
- ・活動するときに気をつけること



【写真1 実行委員が3地区の自治会長の方に取組について相談】

各自治会長さん方からは、取組を評価してもらい、地域のために自主的に行動することのよさについて話された。相談して決まったことを実行委員は各学級で伝え、取組について当日の確認を行った。

2 「地域クリーン活動」当日（11月9日）

当日、5, 6年生は自分の住んでいる各地区公民館に別れて行きクリーン活動を行った。

それぞれの公民館前で、初めに実行委員が進行しながら、自治会長さんの話や全体への連絡などを行った。【写真2】



自治会長さんから、地域の一員として行動できることの【写真2クリーン活動はじめての会】

素晴らしさについて触れられ、活動の意義を再度確認することができた。

さっそく、地域の公園や神社、公民館などにグループごとに分かれて落ち葉やゴミ拾いなどの清掃活動を行った。公民館で用意されたほうきや火ばさみなども使いながらそれぞれ協力しながら行った。【写真3】



3 「地域クリーン活動」を終えた児童の振り返り

自分の活動の反省と、これからの地域への関わり方を【写真3 清掃活動の様子】考えることができるように振り返りを行った。6年生は昨年度の活動と比べて振り返り昨年より頑張ったよさを、5年生は初めてのクリーン活動で考えた地域の一員としての自分を認識できた。

【活動の感想】

春日北小6年 藤木 愛美

最初、掃除をするところに行ったら、落ち葉がたくさんあったけれど、5、6年みんなで協力すると、たった40分だけでとてもきれいになったから嬉しい気持ちになりました。少しでも地域の方々に恩返しができるかなと思いました。地域の方々は私たちがきれいな公民館や公園を使えるように落ち葉掃除などを毎日やっているの、すごいと思います。私は今日の活動でも、すぐ疲れてしまいました。毎日掃除の手伝いをするまではすぐには行動できないけれど、日頃から地域の方々に挨拶や感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

春日北小6年 谷 郁人

クリーン活動でお世話になっている地域に恩返しことができました。なぜなら、まず自分が実行委員に立候補をすることができたからです。実行委員に立候補できたことは良かったし、実行委員として仕事がしっかりできました。そして、去年よりゴミをたくさん集めることができたからです。去年は18袋くらいで今回は20袋以上のゴミをたくさん集められて嬉しかったです。さらに、自分の心もきれいになったと思ったからです。このように頑張ったあとに一番達成感を感じたのは、自治会長さんも言われていたとおり、心の清掃、黙働掃除ができたことです。楽しかったし、恩返しもできて良かったです。

春日北小5年 宮崎 世梨

私たちがゴミ拾いをした場所は、普段は地域の方々がやってくれていると思うとありがたいと思います。私はゴミ拾いをするのにとっても疲れました。でも、みんなすごく頑張っていました。私は、みんなが住んでいる大切な地域をゴミひとつない、きれいで清潔なまちにしていけたら、もっとずっときれいな地域にできると思います。これからも私にできることを生活の中でやっていきたいです。

も、と、し、り、た、い、た、ん、け、ん、た、い

2年³組 10番 名前がよ田 さや



自ち会長さんは公みん
か人の前ではたをも、
てみんなのあんぜんを
まもってくれます。

自ち会長さんは朝の
9時半にきて4時に帰る
そうです。自ち会長さん
は、すいせんされて
自ち会長になりました。

公みんか人のよこのちゅう
しゅうのよこにいらない
糸紙やダンボールをす
てるそうこがあります。

ちとせ町のいいところは、ちとせ町にすんでる
人がいろいろなぎょうじにさんかして
くれるところです。わたしもゴミひろいにさん
かしたことがあります。

春日市立春日東小学校 6年1組 池田 葵

私は、学校と地域がどのようにつながっているのかに興味をもち、5、6年生の2年間、コミュニティ委員として活動しました。

5年生の時は、副部伍長として6年生の部伍長からいろいろなことを学び、だんだん自分の住んでいる原町が好きになりました。

6年生になって、部伍長になると、副部伍長の5年生達に地域のために活動することのよさを伝えたり、率先して部伍会を進めたりしました。「地域ともしっかりつながろう大作戦」や「新聞作り」、「花を贈る」など、たくさんの取組をしてきて思ったことは、2つです。

1つ目は、私たちのためにいろいろなことをしてくださっている地域の方にどう感謝すればよいのかを1人1人が考え、日頃のあいさつや小さな親切から恩返しをしていかなければならないということ。

2つ目は、地域行事に参加したり、近所の人と親しくなったりして、自分の地域が一番好きだと思えることが何より大切だということです。

コミュニティ委員会は、学校と地域をつなげるために作られた委員会です。

私は、前から春日東小と地域がつながるだけではなく、ちがう地区の人どうしが仲良くなったり、小学生だけでなく、中学生や高校生、大人まで年齢を問わず、もっとたくさんの人が自分の地域に親しんだりできたらいいなと思っていました。

だから、私が今後、部伍長としてやってみたいことは、年齢制限無しの自分の地区のよさを伝え合う交流会です。それができれば、自分の地域のよさを知り、たくさんの人が地域を好きになってくれます。また、伝え合うことで、他の地域のよさを知ったり、ちがう地区の人とつながったりすることができま

す。

もっといろいろな人が地域を通してつながれば、町もそして生活もきっとよりよいものになると、私は思います。



「地区の秋祭りに参加して」

コロナの影響で夏祭りが中止になっていました。

6年生になった今年はどうなるのかなと心配していましたが、秋祭りとして開催されることが決まりました。

そして、子供会の役員をしている母から誘われて、スーパーボールすくいのお店員の役割をなんとなく引き受けることにしました。今まではお客さんとしてしか参加したことがなく、とても心配でした。

それでもどうにかなるのかなと思いながら、秋祭り当日になりました。初めは人が少なかったけど、暗くなるにしたがってどんどん人が増えてきて、グラウンドいっぱいになりました。スーパーボールすくいをするお客さんも行列ができるくらいになりました。ぼくは、人が増えるにつれてやる気も出てきました。「いらっしゃいませ。」という声も大きくなりました。いっしょうけんめいスーパーボールをすくうお客さんを見ていると、思わず応援したくなりました。プールの中のボールが少なくなっていくのを見て、なんとなくさみしい気持ちにもなりました。

今回初めてお店をする側になって、秋祭りに参加しました。お客さんが喜ぶ顔を見て嬉しくなりました。みんなの役に立てたことを実感することができました。

4月からは中学生になります。来年の夏祭りには、今度はステージに立って、炭酸飲料の早飲み大会などを進める司会をやってみたいと思います。このように中学生になったら、地域行事に積極的に参加して、地域の役に立ちたいと思います。



令和4年度 春日原小学校 市民性の育ちの記録

ー 第3学年 総合的な学習の時間「大好き 春日原」を通して ー

活動の概要

自治会の方と出会い、地域のための花植え活動を一緒に行うことを通して、地域のことをもっと知りたいという思いを膨らませ、地域のために活動してある人と進んで交流をして自分も地域の行事に進んで関わっていこうという気持ちをもつ。



自治会の方と地域の花植えをする児童



花植えをした花壇の看板



「大好き 春日原」まとめの発表会



発表会での自治会の方からのお話

活動を終えての児童の作文

わたしたちは、社会の学習で、5月に春日原のまちを探検しました。わたしは、1年生の時に春日原に引っ越してきました。校区探検では、わたしの知らない場所のことを知ったり、駅前の商店街を通ったりして、おもしろかったです。駅前の商店街は、お母さんがよく買い物に行くところです。新鮮な野菜や魚が売ってあるので、ご飯がいつもおいしいです。校区探検をして、春日原のまちが身近なまちになってきました。

総合の学習で、春に龍神池の花植えをしました。自治会の方にたくさん来てもらって、一緒に花を植えました。わたしたちが植える前に、自治会の方が花だんの土を耕して、水をたくさん用意してくれていました。植える時も、花の苗をポットから外す方法や、根元を押さえてしっかり植えることを教えてくださいました。しばらくして花だんを見に行くと、花の苗が元気に大きく育っていました。そして、たくさんのお花を咲かせていました。町の人たちも、花を見て笑顔になっていました。花が元気に咲いているのは、自治会の方が花の水やりをしてくださっているからだと思いました。

わたしは、花植えをして、まちの人のことを思って仕事をしている人たちがいることを知りました。春日原のまちと、そこに住む人たちのことを知ることができました。これからは、まちの人たちに感謝して、出会ったら元気なあいさつをしたいと思います。

ぼくは、はじめは「大好き 春日原」の活動の花植えに興味がありませんでした。なぜなら、花が全然好きではなかったからです。だから、最初はつまらないと思っていました。

しかし、春と秋に2回、地域の花壇に花植えをしに行き、やってみると楽しいと思ったので、とても花が好きになりました。花ってこんなにきれいなんだとか、こんなにちがいがあるとか、いっぱいぼくが知らないことがあって、もっと花を知りたくなりました。

また、ぼくは、地域の人ともっと仲よくなりたいと思っていました。でも、ちょっとかわりにくいという感じをもっていて、あまりしゃべることができませんでした。しかし、この学習をして、多くの人とかかわりながら、あいさつや会話をするようになりました。花植えの時も、思い切って自分からあいさつをしました。すると、「こんにちは」と返してもらえました。とてもうれしかったです。あいさつ一つでこんなに幸せを送ることができるなんてすてきだなと思い、毎日あいさつをするようになりました。

地域の人とたくさんかわりながら、自分の知らないこともたくさん知ることができたり、人とのつながりが多くなったりすることができて、本当にうれしかったです。これからも、この地域でたくさんの人とかかわりながら過ごしていきたいと思います。

「大好き 春日原」の学習をして、一番心に残ったことは、ヒマワリの花植えです。わたしたちは、苗を植えたのですが、その苗は実は春日原自治会の村上会長が大切に育ててくれたものだと聞きました。学校やわたしたちのために、こんなにたくさん育ててくれてすごいと思いました。とてもうれしくなりました。

この前の春日原小学校の「たてわり炊飯活動」で使うたくさんのマキを、村上会長がトラックで持ってきてくれたのを見ました。どうして、学校やわたしたちのためにこんなにしてくれるのだろうと思いました。

なんと、枯れてしまったヒマワリもきれいに片付けてくださったことも、後から知りました。ありがたいと感謝の気持ちがわいてきました。今、ヒマワリが咲いていた冬の花だんに、落ちていた種から芽を出したヒマワリが5本くらい咲いています。ちょっと背が低いヒマワリだけど、花を見ると村上会長を思い出します。

村上会長は、公民館にいらっしゃることが多いので、これからもたくさんあいさつをしていきたいと思います。そして、春日原の地域で楽しく過ごしていきたいと思います。

<春日市立春日西小学校>

■第4学年 総合的な学習の時間「ボランティア大作戦」の取組から

本校では、子ども・保護者・地域が共に学び合う「三者連働カリキュラム」による授業を行っている。このカリキュラムでは、1・2年生は「地域とふれあう」、3・4年生は「地域と共に活動する」、5・6年生は「地域に働きかける」ことができる授業を行っている。また、この授業を通して、コミュニティ・スクールのよさが保護者・地域にも伝わり、“子どもを育てる地域基盤”がさらにしっかりしたものになっていくと考えている。

今回紹介するのは、第4学年総合的な学習の時間「ボランティア大作戦」の取組である。ボランティア活動の意味や役割・原則などについて知り、自分たちにできるボランティア活動について計画を立て実践することを通して、人の役に立つ生き方の素晴らしさに気づき、今後の自分の在り方を考えることができることをねらいとした。

4年生が考えたボランティア活動は、「校区の4つの公民館の清掃」であった。グループごとに、活動内容を考え、学級の友達に提案し、ボランティア活動の計画を立て、準備を進めた。そして、学級ごとに公民館を決め、地域コーディネーターに日程等の連絡調整を依頼し、ボランティア活動に取り組んだ。

【児童の作文】

〇清掃ボランティアを通して…

4年(松尾 結花)

わたりろうかとかいぎ室もそうじしました。
そうじするまえは「よしがんばるぞ!!!」
と思っ、て、だんだんそうじをしていく
につれて「楽しいなあ、もっとそうじしたいなあ」
というかんじがでてきてとても楽しかった。でも
そうじが終わった後、館長さんが「すごい、
ぴかぴかになるね。」といってくれたのが、そうじしては、

たなあボランティア、7人をえがおにできる人だと思いました。

〇自分が一番がんばったこと、分かったこと、理解できたこと1つに〇をつけよう。

- () ボランティア活動の大切さに気づき、相手の気持ちを考えて活動することができた。(課題設定・解決力の方)
- () ボランティア活動をするために、進んでしようほうを集めたり、考えをまとめたりすることができた。(学び方・考え方)
- () ボランティア活動をするために、意よく的に活動内容を考えたり、一生けん命じゅんぴしたりすることができた。(主体的・創造的な態度)
- () 清掃ボランティアを通して、人の役に立つよさに気づき、これからの生活に生かしていきたいと考えた。(自らの生き方)



〇清掃ボランティアを通して…

4年(奥平 稀子)

わたしは、わたりがりをやりました。
 やり終えているときに、みんながこれ
 からも、ずっときもちよくいられるようにと思
 いて、やり終る時には、あときれいにし
 て、これからもずっときれいでいてほしいと思
 いました。かん長さんの話をきいて、これからも
 自分のももきれいにたもていきたいと思
 いました。

〇自分が一番がんばったこと、分かったこと、理解できたこと1つに〇をつけましよう。

- () ボランティア活動の大切さに気づき、相手の気持ちを考えて活動することができた。 (課題設定・解決力の力)
- () ボランティア活動をするために、進んでしようほうを集めたり、考えをまとめたりすることができた。 (学び方・考え方)
- () ボランティア活動をするために、意よく的に活動内容を考えたり、一生けん命じゅんびしたりすることができた。 (主体的・創造的な態度)
- () 清掃ボランティアを通して、人の役に立つよさに気づき、これからの生活に生かしていきたいと考えた。 (自らの生き方)



〇清掃ボランティアを通して…

4年(白川 心結)

私のたんとうはホールで、そじをやる前はこんな広いところ
 に来るのかなと思えば、のちがそじをしたら後にみんなに
 礼になるんた!!と思ってもうれしくなりました。もしも
 ボランティア活動をするきかいがあれば、地いき
 を守る心を大切にして、活動しようと思
 います。

〇自分が一番がんばったこと、分かったこと、理解できたこと1つに〇をつけましよう。

- () ボランティア活動の大切さに気づき、相手の気持ちを考えて活動することができた。 (課題設定・解決力の力)
- () ボランティア活動をするために、進んでしようほうを集めたり、考えをまとめたりすることができた。 (学び方・考え方)
- () ボランティア活動をするために、意よく的に活動内容を考えたり、一生けん命じゅんびしたりすることができた。 (主体的・創造的な態度)
- () 清掃ボランティアを通して、人の役に立つよさに気づき、これからの生活に生かしていきたいと考えた。 (自らの生き方)



お	す	元	こ		と	「	て	な	を	作		ま	し	を	級					
客	ば	に	と	二	思	い	、	ス	つ	る	そ	し	た	考	生					
さ	や	も	で	つ	っ	き	一	ー	け	こ	し	た	え	え	た	一	ぼ	春	み	
ん	く	ど	す	目	て	た	目	パ	た	と	て	。	て	ち	ち	く	日	ん		
が	元	す	。	は	も	い	見	ー	こ	に	、		き	と	い	の	市	な		
来	に	こ	ぼ	、	ら	な	た	ポ	と	な	屋		ま	、	っ	夏	立	を		
て	も	と	く	し	え	あ	だ	ー	は	り	台		し	計	し	まつ	須	楽		
く	ど	で	の	ゃ	る	。	け	ル	、	ま	を		た	画	ま	り	玖	し		
れ	す	し	た	て	よ	楽	で	の	ね	し	し		。	で	せ	の	小	る		
て	こ	た	ん	き	う	し	、	形	だ	た	よ		そ	が	る	思	学	夏		
嬉	と	。	と	の	に	そ		を	ん	。	う		の	ん	夏	い	校	まつ		
し	で	気	う	屋	す	う		し	を	ポ	か		結	ば	出	は	三	り		
か	し	を	は	台	る	だ		よ	入	ス	い		果	っ	二	つ	年			
っ	た	つ	、	の	こ	な		う	れ	タ	す		、	た	あ	り				
た	。	け	た	手	と	あ		か	たり	ー	る		し	こ	二	つ				
で	た	た	お	伝	で	。		い	い	づ	ポ		ゃ	と	あ	り				
す	く	こ	れ	い	し			し	ろ	く	ス		て	で	ま					
。	さ	と	た	を	た			た	い	り	タ		き	す	す					
夏	ん	は	的	し	。			り	ろ	で	ー		や	。	直					
祭	の	、	を	た				し	ろ	気	を		ス	上	広					

20 × 20

は	す	屋	手	。	子	ま	ん	大	が	た	こ	い	夏	画	す	ぼ	春	意
、	係	台	伝	夏	で	せ	で	事	合	り	と	た	祭	や	。	く	日	見
相	の	で	い	祭	も	ん	も	に	わ	し	が	り	り	運		は	市	を
手	仕	は	を	り	楽	で	ら	し	な	ま	で	、	の	営		、	立	出
に	事	、	す	で	し	し	う	た	い	し	き	ど	準	に		夏	立	し
伝	を	す	る	は	む	た	こ	か	こ	た	る	な	備	関		祭	立	合
わ	し	く	こ	、	こ	。	と	っ	と	。	か	屋	を	わ		り	須	っ
る	ま	つ	と	実	と	ぼ	だ	た	も	話	を	台	し	っ	で	玖	た	
よ	し	た	が	際	が	く	っ	の	あ	し	実	が	て	た	が	小	夏	
う	た	ポ	で	に	で	が	た	は	り	合	行	あ	き	こ	ん	学	祭	
に	。	ー	き	ポ	き	提	の	、	ま	い	委	る	ま	と	ば	校	り	
は	特	ル	ま	ー	る	案	で	そ	し	で	員	と	し	で	っ	六		
っ	に	を	した	ル	ポ	した	、	れ	た	は	で	み	。	。	た	年		
き	気	入	。	す	ー	の	そ	だ	れ	。	話	ん	ポ	計	こ			
り	を	れ		く	ル	は	れ	た	た	み	し	な	ス	画	と	鳥		
と	つ	る		い	す	、	だけ	人	、	ん	合	が	タ	の	が	居		
話	け	袋		の	く	小	は	に	ぼ	な	っ	楽	ー	時	あ			
す	た	を		屋	い	さ	は	楽	く	の	て	し	を	か	り	暖		
こ	こ	を		台	で	さ	譲	し	が	意	決	む	か	ら	ま	広		
と	と	渡		の	す	い	り			見	め							

20 × 20

										で	る	が	ー	な	楽		て	こ	っ	し	で	
										す	だ	で	さ	り	し	小	も	と	た	ん	し	し
										。	け	き	ん	ま	む	学	ら	を	数	で	た	た
											で	ま	に	し	だ	校	え	き	の	も	。	。
											な	し	支	た	け	最	ま	ち	ボ	ら	た	た
											く	え	え	。	で	後	ん	ー	う	く	く	く
											実	ら	ら	地	な	の	。	と	ル	た	さ	ん
											行	れ	て	域	、	夏	と	伝	め	ん	の	の
											に	か	素	の	楽	て	え	に	い	ひ	と	と
											関	ら	敵	皆	し	も	、	来	っ	と	に	に
											わ	も	な	さ	ん	嬉	て	く	ぱ	い	ボ	。
											っ	地	思	ん	で	し	れ	た	い	す	。	。
											たり	域	い	や	も	か	た	人	こ	く	っ	す
											り	行	出	コ	ら	っ	た	に	と	っ	て	く
											し	事	を	ー	う	た	分	が	も	。	。	い
											て	に	作	デ	夏	で	か	で	決	。	。	。
											い	参	る	イ	祭	違	っ	か	ま	。	。	。
											き	加	こ	ネ	り	っ	。	。	。	。	。	。
											たい	す	と	ー	に	。	。	。	。	。	。	。
											い			タ								

20 × 20

の	し	時	の	に	し		こ	夏	し		も	動	し	り	夏	年				夏
最	ま	間	は	や	た	祭	と	祭	た	今	う	会	か	、	祭	記				祭
後	ま	が	、	り	。	で	で	り	。	年	一	で	っ	久	り	念				り
の	う	か	説	方	輪	は	す	の	そ	の	回	発	た	し	で	と				で
方	度	か	明	を	ゴ	、		計	れ	祭	踊	表	で	ぶ	し	し				楽
で	に	か	の	説	ム	ぼ		画	は	で	る	し	す	り	た	、				し
は	あ	っ	仕	明	銃	く		か	、	は	こ	た	。	に	。	須				か
、	せ	て	方	し	に	は		ら	ぼ	今	と	ソ	ま	た	夏	玖				っ
お	っ	し	と	たり	輪	、		祭	く	ま	が	ー	た	休	南	小				た
客	て	い	的	し	ゴ	射		の	が	で	で	ラ	、	み	地	学				こ
さ	し	、	を	ま	ム	的		実	子	き	き	ン	ス	に	区	校				と
ん	ま	お	準	ま	を	コ		行	供	て	嬉	テ	入	っ	と					
が	い	客	備	し	つ	ー		ま	役	し	し	ー	っ	て	弥	4				
た	ま	さ	す	た	け	ナ		で	員	か	か	ジ	っ	い	生	年				
く	し	ん	る	。	た	ー		手	に	っ	っ	発	た	た	地					
さ	。	を	こ	難	り	を		伝	立	た	た	表	こ	こ	区					
ん	で	待	と	し	お	当		い	候	あ	で	で	と	と	の					
い	も	た	で	か	客	し		を	補	り	す	は	う	も	合					
た	、	せ	し	っ	さ	ま		し	し	ま	。	な	、	あ	同					
け	祭	て	た	た	ん	ま		た	て	ま		で	運	れ	あ					

20 × 20

																員	し		が	り	ど
																に	い	祭	ん	ま	少
																立	一	の	ば	し	し
																候	日	日	る	た	ず
																補	を	は	こ	。	つ
																し	過	と	と	他	説
																て	ご	て	が	の	明
																よ	す	も	で	子	や
																か	こ	暑	き	供	的
																っ	と	く	ま	役	の
																た	が	て	し	員	準
																で	で	大	の	の	備
																す	き	変	み	が	で
																。	ま	だ	ん	な	き
																	し	っ	な	と	る
																	た	た	協	よ	う
																	。	け	力	し	に
																	子	ど	し	て	な
																	供	、			
																	役	楽			

20 × 20

第5回目

めあて 春日市惣利地区の伝統「惣利太鼓」の発表会で、4年生に太鼓の良さを伝えよう。

【感想】

春日市惣利地区の伝統「惣利太鼓」に触れ合った学習はどうでしたか？感想を書きましょう。稲永さんにもお手紙にして読んでもらおうと思います。ていねいに書いてくださいね。

- 春日市惣利地区の伝統、稲永さんがお話して下さったこと
- 実際に和太鼓を演奏してみて思ったこと
- 稲永さんへの感謝の気持ち など

惣利太鼓を教えてくださり、ありがとうございます。
初めて、太鼓をたたいた時は、すごく難しくてあまり上手にた
たけなからたけど、この惣利太鼓の学習の時に、たたき方
などを、わかりやすく教えてもらって、すこしだけ、太鼓を上
手にたたけるようになりました。惣利太鼓は春日市の伝
統と始めて聞いたときには、あまりよくわからなかったけ
ど、昭和63年から、今まで和太鼓をしていると知ったか
とても長い年月が経っても、和太鼓を教えたり、イベントで
登壇していると思うとすごくほこらしいなと思いました。
4日間という短い期間でしたが、朝早くから、たくさんの
太鼓を運んだり、ならべたりしてくれてありがとうございます。
いしました。この惣利太鼓を日本の伝統的文化として、
たくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

5年 1組 名前(遠とう玲奈)

本校では、第6学年において5月～7月の期間、地域連携カリキュラムとして、「奴国の丘歴史資料館」を訪問し、自分たちが住む「春日」の歴史や文化を調べることを通して、春日市のよさに目を向け、地域に対する関心を高めさせている。本児童は、その学習後に公園に遊びに行った際、ゴミがたくさん落ちていたことに心を痛み、友人と一緒にゴミ拾いを行ったことを作文として表現した。

春日市立春日南小学校 第6学年 2組

氏名 染川 美波

【かがやく公園に】

私は、放課後に金口池公園に遊びに行きました。遊んでいると、おかしなゴミや缶などたくさん落ちていて、びっくりしました。最初は誰がこんなことしたんだろう。汚いなと思っていただけ、拾わないと周りの迷わくになるし、前からやめておいたから、やってみようかなと思ったので、学校からゴミふくろをもらってゴミを拾いました。

ゴミひろいをしていると、ゴミに大きなありがたさを感じて、私たちは虫が苦手だけど、拾うことで、またきれいな公園にもどり、私たちだけではなく、もっとたくさんの方が気持ちよく公園に来ることができると思いながらゴミを拾いつづけました。

ゴミを拾いおわって公園を見ると、最初よりきれいになって、かがやいていました。

ゴミを拾っただけでこんなに嬉しくなったなと思いました。

もう、みんなが大好きな公園にゴミをおとさないでほしいし、私もおとさないように気をつけようと思いました。



〈春日市立大谷小学校〉

◎大谷小全校部伍会における取組から

【取り組みの経緯】

本校では、子供たちの市民性の育成を高めるために、全校児童が自分たちの住んでいる3地区（大谷・小倉東・大和町）に分かれ、自分たちの住んでいる地域のよさや課題について考え、取り組む「全校部伍会」の時間を、年に4回カリキュラムに位置付けている。

○第1回 5月 全校部伍会発足式

地区ごとにスローガンを立ち上げ、今年頑張ることを自治会長さんと同じ地区の子供たちと共有する。

○第2回 7月 夏まつりポスター制作

部伍会のリーダーが中心となり夏祭りで部伍会が企画・運営するコーナーについての内容を企画し、学校運営協議会で立案する。そして、全校部伍会で JRC 委員会が作成したポスターの色塗りを全校で行い、全校児童が祭り（地域行事）に参画する意欲付けを図る。

○第3回 10月 PTA 資源回収やクリーン作戦（地域清掃活動）への参加を呼び掛け

前期の反省を行い、自分たちにできる活動に参加する意識を育てる。

後期に行われる PTA 資源回収やクリーン作戦への参加を呼び掛ける。

○第4回 2月 1年間の自分の活動の振り返り

谷っ子ノートを利用し、後期の活動の振り返りを行い、よさともっと頑張りたいことを交流し合う。今年、来年取り組みたいことも出し合わせておく。

地域活動を進めるにあたり、部伍会長（地域リーダー）は、学校運営協議会に参加し、現状を報告したり地域の方にご意見をいただいたりして、学校と地域が繋がるように努めている。また、全校朝会や終了式、全校掲示板等を通して、地域行事への参加等を全校に発信を続けている。

【実際の取り組み】

① 夏祭りに向けて

第2回の学校運営協議会（6月13日）に、JRC 委員会が参加し、自分たちが考えた夏祭りの内容を提案した。自治会長や地域の方からのアドバイスをいただき、具体的な内容を検討していった【写真1】。

第2回の全校部伍会（7月6日）では、全校児童は地区ごとに教室に分かれて、夏祭りのポスター制作を行った。上級生が下級生に祭りのことを説明しながら色鮮やかなポスターを完成させた。一緒にポスターを作成することで、地域行事への興味をもたせ、またお互いの関係性を深めていくことができていた【写真2】。

しかし、残念ながら、コロナ感染状況の悪化に伴って、3地区とも夏祭りは中止となった。



【写真1 学校運営協議会への参加】



【写真2 部伍会でのポスター制作】

作文 I

温かいことばがあふれる大和町に A 児

今年の夏祭りでは、小さな子から大人までみんなが楽しく楽しめるような夏祭りにできればいいなと思い計画しました。チラシ作りでは、全校部伍会で大和町地区の1～6年生みんなが一生けんめいに色をぬってくれて、とてもいいポスターになりました。夏祭りは、コロナのことがあって、計画通りにはできませんでした。しかし、自治会長さんのおかげで、大谷小学校のなかで唯一ちょっとしたビンゴ大会を行うことができました。とってもうれしかったです。ビンゴ大会には、1～6年生はもちろん、中学生や幼稚園児まできてくれてとてもいい思い出になりました。

地域の人と夏祭りの計画とかで関わり、地域の人はいつもやさしく温かみがありました。「いつもたよっていいよ」などの、温かい言葉をもらいとてもうれしかったです。

ぼくは大和町がだいすきです。これからも、このような温かい言葉がもっとあふれる大和地区にしたいです。

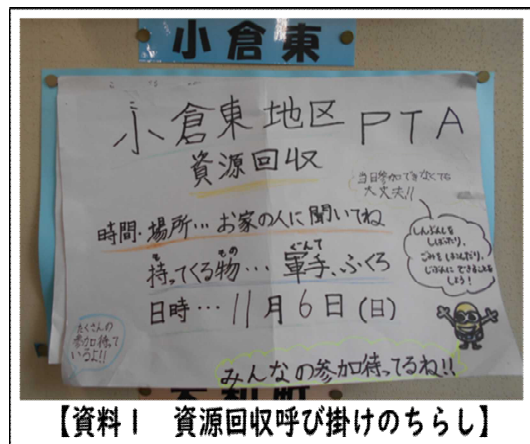
② PTA資源回収・市主催クリーン作戦への参加

年に3回(6月・11月・1月)の資源回収とクリーン作戦への参加を予定している。

JRC 委員会が活動前に校内放送で周知したり、手作りちらしを配付したりして、「自分ができることで参加しよう。」と、全校児童にたくさんの参加を呼び掛けている【資料1】。

活動終了後には、参加人数を集計したり、活動に参加した人には谷っ子ノートにスタンプを押したりして、一人一人の頑張りを認めている。

また、資源回収やクリーン作戦には、親子で参加することを進めている。子供たちの参加をきっかけに、親の意識も高め、親子それぞれの市民性の育成につなげていきたいと考えている【写真3】。



【資料1 資源回収呼び掛けのちらし】



【写真3 クリーン作戦での活動の様子】

作文2

クリーン作戦 B児

私は、1年生から6年生までずっとクリーン作戦に参加しています。なぜなら、町がきれいになることで心がさっぱりとした気持ちになり、小倉東の地区のみんなが笑顔になるからです。また、地域の人と関わり仲が深まることができるからです。私は、気持ちの良い町、楽しい街にしたいと思い、クリーン作戦に参加しています。参加して気付いたことは、1年生の時より参加してくれる人数が増えたことです。1年生の時は、10人ぐらいしか見かけなかったけど、2年生から6年生になるにつれてどんどん増えてきました。今では、30人近くの人を見かけるようになりました。これは、地域の方やJRC委員会の呼び掛けのおかげかなと思います。私はJRC委員会（地域リーダー）として、ポスターやちらし、呼びかけなどを増やし、参加人数が増えるように努力しました。これからはもっと小倉東地区が「楽しい」「気もちの良い町」と思ってもらえるように、地域リーダーとしてどんどん呼び掛けていこうと思います。それ以外にも、地域行事に参加し楽しい町にしていこうと思います。地区リーダーとして一生けんめいにがんばります。よろしくおねがいします。

【新しい取り組み】

○ハッピーカード大作戦

今まで学校で行っていた友達のいいところ見つけ「ハッピーカード」を、後期からは、地域にも目を向け、地域の方のいいところも積極的に見つけ、地域の方へ届けるようにした。子供たちに地域の方のよさに目を向けさせることで、自分たちのために活動して下さる地域の方たちの存在に気付き、感謝の気持ちをもつことができた。

このように、ハッピーカードを通して、もっと地域の人たちとつながる取り組みを広げているところである【資料2】。



資料2 ハッピーカード】

作文3

「地域の方ありがとう」 C児

私は、JRC コミュニティー委員会として、明るい大谷地区にしていきたいと思いました。

そのために、スローガンを「明るい笑顔がいっぱいだ みんなが協力 大谷地区」にしました。そして、クリーン作戦や資源回収の参加の呼びかけを行いました。また、夏祭りのきかくも行いました。ざんねんながら、中止になってしまいましたが、みんなでポスターを作っているときは、みんなが笑顔いっぱいになりました。

JRCは大谷地区の自治会と協力活動していて、夏祭りの企画を考えるとときに自治会長の多田さんとたくさん話し合いました。多田さんは、夏祭りが中止になったとしても、みんながせっかく考えたゲームは絶対いつかどこかで実現させようねと優しくはげましてくれました。また、多田さんは朝早く歩きながら、ゴミ拾いをしてくれています。そうやっていつも私たちを支えてくれています。感謝の気持ちを忘れずに、活動していきたいなと思いました。

作文4

「みんなで作る地域に」 D児

私は、小倉東地区が大好きです。理由は地域の方々がとても優しく、私たちを温かく見守ってくださるからです。

学校から家に帰っている時に、よく「おかえり。」と、温かく声をかけてくださいます。それだけではなく、朝も早くから、交差点のところに立って「おはよう。いってらっしゃい。」と、優しく声をかけてくださり、「今日も一日がんばろう。」と、思うことができます。

もちろん、このことだけではなく、私たち谷っ子は、地域の方々にいつも支えていただいて気持ちよく過ごすことができます。「部伍会活動」は、大谷小が珍しいです。とてもありがたいことですが、この間の部伍会活動の時に、私はみんながそれに気付いていないんじゃないか？と思いました。そこで、これからは、自分か気づく地域のいいところを見つけて、発信していきたいと思いました。そして、みんなも地域への感謝の気持ちをもてば、地域の人同士の交流が増えます。私やそんな地域になるともっとよいと思います。

題名 「 自分の変化 」

ぼくは、4年生から地域の子ども会の活動に参加しています。特に、5、6年生のイベントの計画から参加の準備、出店など、自分の担当を決めて行うことができ、とても心に残る行事になりました。

自分の担当の仕事を行っているとき、

「えらいね。」

「がんばっているね。」

など、多くのうれしい言葉をいただきました。たくさんの方が参加してくださり、

「もう、開いていないの？」

と聞かれるほどの好評ぶりで、とてもたいへんでしたが、良い経験になりました。

このような経験をくり返し、地域の人との交流をしながら、ぼくは、成長していくことができました。子ども会に参加する前までは、家族や友だちと話すことしかありませんでした。しかし、地域の行事などに参加することで、たくさんの人たちから話しかけられたり、自分から話しかけたりすることができるようになりました。

今は、毎日、「自分からあいさつ」をモットーにがんばっています。地域の方にあいさつをすると必ず返ってくるので、「やさしい地域だな。」とつくづく感じます。



題名 「先輩たちにあこがれて」

わたしは、5年生から地域の子ども役員をしています。役員になったきっかけは、今までの先輩たちの姿を見ていたからです。先輩たちは、地域の行事で、わたしたちに、やさしく教えてくれたり、みんなが喜ぶような活動をしてくれたりしました。その姿にあこがれをもち、子ども会役員に入りました。

10月の「秋祭り」では、「わたあめ」と「おもちゃ」の店を出しましたが、2つともとぶように売れて、とてもたいへんでした。しかし、とても楽しく、買ってくれたお客さんの笑顔を見ると、とてもうれしかったです。特に、わたあめ売りでは、友だちが買いに来てくれて、

「がんばれ。」

と、声をかけてくれたり、差し入れを持ってきてくれたりして、「もっとがんばろう。」と思いました。

12月の「もちつき大会」では、友だちと協力して、いろいろな種類のおもちを作ることができました。たくさんのお客さんがいて、少し緊張しましたが、笑顔で、

「ありがとう。」

と言ってもらえると、「がんばってよかったな。」と思いました。

わたしは、子ども役員として、地域の方や小さな子と関わることで、やりがいを感じました。また、大変なことでも、「必ずだれかの役に立っているんだ。」と学びました。

中学校に行っても、できるかぎり地域の役に立つことができるように、地域の行事やボランティア活動に参加したいと思います。



題名 「 拍手かっさい！和だいこクラブ 」

わたしは、地域の秋祭りで、和だいこクラブのみんなと楽しみながら、たいこをたたくことをがんばりました。これまで、クラブで練習していても発表することができなかったのですが、たくさんの人たちに見てもらえると思うと、うれしかったです。

最初は、夏祭りで発表する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染者が増えていて、延期になったので、もっと上手くできるようにみんなと練習しました。わたしは、4年生、5年生にもむずかしいところを教えて、そこを中心的に練習しました。また、発表するときに話すセリフを考えて、話す練習もしました。

秋祭り本番では、たいこをたたく前には緊張していたので、

「だいじょうぶだよ。」

などと、声をかけあいながら本番を待っていました。

和だいこクラブの出番になり、みんなと音を合わせながら演奏しました。最後に、「やあー！」というかけ声は、みんなと心合わせて言いました。

演奏が終わると、たくさんの方から、拍手がおこりました。それを見たときに、「みんなと練習をがんばった甲斐があったなあ。」と、達成感でいっぱいになりました。



春日市立春日野小学校 第6学年3組 白水 伊織

題名 牛頸川清掃に参加して

私は7月に春日幼稚園の裏にある牛頸川の清掃に参加しました。参加した理由は、いつもクリーン作戦に参加したときに、きれいになると気持ちがよくて、地域の方にとっても喜ばれるので、地域の人たちが集まる場所を掃除する事はとてもやりがいがあることに気づいたからです。

実際に参加して、一番大変だったのは大量に生えている草を抜くことでした。カモいるし、軍手は泥水でびちゃびちゃで最後はすごく気持ち悪かったです。Tシャツも靴も汚れました。それでも、みんなと協力して、草抜きとゴミ拾いをがんばりました。用意してあったゴミ袋が全部なくなるほど集まりました。きれいになった牛頸川を見て、すごく達成感がありました。牛頸川清掃に参加してよかったので、もっと参加する人が増えたらいいのになと思いました。私はコミュニティ委員会なので、これから、コミュニティ委員会だよりや校内放送で地域行事を紹介し、全校に呼びかけていきたいと思います。



<春日市立日の出小学校>

◎全校による「ニコニコあいさつ大作戦」の取組から

【取組までの経緯】

本校では、市民性の育成を「レベル4を目指すあいさつの取組」を通して行っている。あいさつのあふれる学校にするために、児童運営委員会が、これまでに様々な取組をしてきたことで、レベル4のあいさつ（どこでも、だれにでも）が全校に浸透してきている。

そこで、次のステップとして、家庭や地域にあいさつを広げるために、6月の代表委員会の議題として、取組の名称とその内容を話し合うことになった。

話し合いの結果、作戦名は、「ニコニコあいさつ大作戦」、内容は、地域の方にあいさつをすることとなった。また、運営委員会が作成した「ニコニコカード」に、あいさつが返ってきた回数分、○をつけていき、50個たまったら、お家の方から感想を書いてもらい、運営委員会に提出する仕組みを作った。運営委員会は、提出がある都度、お昼の放送で達成した友達の名前の紹介と表彰をするようにした。



以上の内容を、6月30日（木）に行われた学校運営協議会に運営委員が参加し【写真1】、以下の3点について相談を行った。

【写真1：学校運営協議会で説明している運営委員の様子】

- ① 実施時期について
- ② 期間を2週間と考えていることについて
- ③ 地域の人に取組を広げる方法について

委員の皆様からは、非常に良い取組だと評価していただくと共に、①については、地域へ周知をしっかりと行ってからの実施が良いので、夏休み明けからじっくり取り組むこと。②については、2週間まずやってみること。③については、公民館にポスター等で掲示、回覧板で実施内容を周知すること。を提案をしていただいた。③の意見については、運営委員会が公民館に掲示するポスター【資料1】を作成し、学校だよりもこの作戦を載せ回覧板で掲示していただいた。



【資料1：掲示用ポスター】

【実践に向けて】

実施は、9月5日（月）～16日（金）までの2週間で行った。

実践前に、児童会からお昼の放送で、「ニコニコあいさつ大作戦」に向けて、ひとりひとりが目的を持てるように、「私は、あいさつをすると周りの人がいい気持ちになるので、地域の方に進んであいさつをすることをがんばります。」といった内容で、代表

3名がそれぞれのめあてを発表した。最後に「みなさんもクラスであいさつする目的を話し合い、めあてをつくってください。」と全校に呼び掛け、意欲付けを行った。

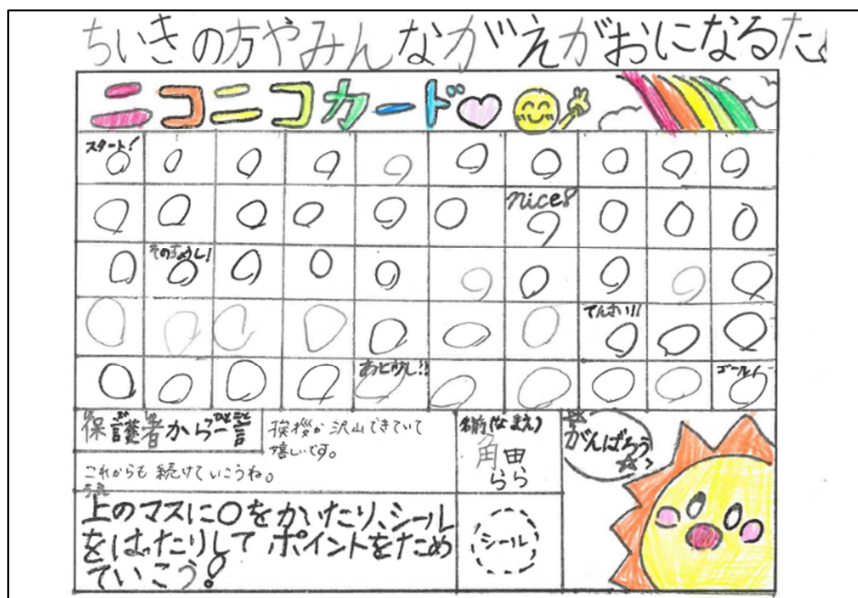
【実践中】

実践中は、登下校中や放課後に、進んであいさつ【写真2】をしたことが、「ニコニコカード」【資料2】の〇がどんどんたまっていくことから確認することができた。



【写真2：朝の正門の様子】

2週間で、全校311人中50個達成した人数が109人（達成率35%）で、毎日のように運営委員がお昼の放送で紹介を行い、全校で称賛し合うようにした。



【資料2：50個達成した児童のニコニコカード】

【実践後】

第3年1組 （米村 丞）

「がんばったニコニコあいさつ大作戦」

「ニコニコあいさつ大作戦」をする前は、ぼくは、恥ずかしくて相手がえがおになるあいさつができませんでした。それでぼくは、「あいさつで地域の人達をえがおにする。」という目標に向かって自分も相手もえがおになるあいさつをがんばって続けました。地域の方にあいさつをした時に、「いいあいさつだね。」と言ってもらいました。言ってくれた方が笑顔になっていたので、うれしかったです。これからもあいさつを広げて、地域の方をえがおにするためにがんばろうと思いました。

「感謝の地域清掃」

春日市立白水小学校 6年 芳野 友香

私は、地域清掃でペアの1年生と一緒に頑張り天神の木公園をきれいにしました。
お世話になっている地域の方々への日頃の感謝の気持ちを行動に移せたらいいなと思
いながら協力してごみ拾いをしました。ペアの1年生も頑張っていたので私ももっと頑
張ろうと思い地域清掃に励みました。約1時間、外掃除をすることはとても大変でした。
けれども、終わった後にあたりを見渡すと来た時よりもきれいになりうれしかったです。
「この地域に住んでいてよかったな」と地域の皆さんに心からそう思ってもらえたら
いいなと思いました。この地域清掃をとおして、普段、小学生のために旗当番をして
くださっている地域の人たちに毎日感謝しようと思いました。
これからも地域清掃の時のように、自分の行動で地域への感謝を表そうと思います。

「地域への感謝」

春日市立白水小学校 6年 斎藤 冬真

今回、ぼくは天神の木公園を1年生と一緒に清掃しました。
公園にはたくさんの落ち葉が落ちていてみんなで協力して落ち葉を集めたり、ゴミを
拾ったりすることを頑張りました。ぼくは地域清掃をしているとき、「いつも頑張って
くれている地域の方のためだ」と思いながら頑張って清掃をしています。その理由は、
いつもボランティアで旗持ちをしてくださっている方々や地域の行事を企画してくだ
さっている方々へ感謝の気持ちを伝えたかったからです。

ぼくは、地域清掃をした
ことによって、地域の旗持
ちボランティアの方が地域
の行事を企画してくださ
っている方々に感謝の気持
ちを伝えることができたな
と思いました。

これからも地域のために
活動してくださっている
方々に感謝して日々を過
ごしていこうと思います。



「SDGs で学んだこと」

春日市立白水小学校 5年 津野 祐華

総合的な学習の時間に「SDGs について考えよう」という学習で、SDGs の目標を達成するために私たち一人一人が取り組む内容について話し合う「SDGs サミット」を開きました。

「SDGs」は、誰一人取り残されないよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標のことで、17の目標があります。6月に白水ヶ丘に住む中川さんに SDGs について詳しく教えていただきました。そして、様々な目標の話聞いて、日本は男性政治であることや年間800万トンものゴミが海に流れ出し海が汚染されること、海の生き物だけでなく陸の野生生物にも絶滅の恐れがあることを知りました。

17の目標の中で、私は特に海洋汚染について関心を持ちました。海はみんなの生活を支えています。しかしその海に大量のごみが流れ出し、海が汚染されていたり、人間の活発な活動によって海に悪影響が及ぼされたりしていることがわかり、このままじゃだめだと思いました。特に大量のプラスチックゴミが生き物を苦しめていることが気になりました。その解決に、国レベルじゃなくても身近で私たちにできることがあるんじゃないか、それをすることで、今の海の現状を少しでも良くできるんじゃないかと思いました。

SDGs サミットでは、5年生がグループに分かれ、自分たちが日常で取り組める内容について話し合いをしました。各グループに自治会長さんや公文の先生などの地域の方や保護者の方が入ってくださいました。中川さんも交えて話し合いをしていく中で、自分たちよりも経験豊富でいろいろなことを知っているの、私たちだけでは気づかないことにも気づかせてもらいました。プラスチックの活用方法について、エコショップ認定店のことや大きなお店にはリサイクルボックスがあることなど参考になることを教えていただきました。春日市でも SDGs に関する取り組みがたくさん行われていることがわかりました。

2030年までに SDGs の目標が達成されるよう、サミットで宣言したようにエコバックやマイボトルを使う。エコショップ認定店



などにプラスチックごみを持っていきリサイクルする。まだ使えるプラスチックをごみとして捨てないなど、まず私が取り組みみんなに広め頑張っていきたいです。それらに私たち一人一人が取り組むことで、少しでも海に流れ着くゴミの量を減らせれば良いと思います。

サミットをとおして、5年生のみんなも地域の方々も、みんなが気持ちよく安心して暮らせることを願っていることがわかりました。誰もが気持ちよく生活できる街にするために、春日市民が積極的にプラスチックなどをリサイクルする街で、出すゴミの量を減らし、エコバックやマイボトルを使う人が多くなれば良いなと思います。そのためにできるだけ多くの人に私たちがサミットで決定した取り組みを広め、自らもSDGsの取り組みをやっていきます。難しいこともあるかもしれませんが、モノをできるだけ長く使うエコバックを使うことを目標にして過ごしていきたいと思います。

「地域の宝人のコジマさんに会い」

春日市立白水小学校 3年 大野 向絆

ぼくは、地域の宝人であるコジマさんとしめ縄づくりをしました。ぼくがしめ縄づくりをとおして感じたことが2つあります。

1つ目が、感謝です。地域の方々は、とても忙しい中、ぼくたちのために休んでわざわざ来てくれました。とても感謝しています。



2つ目は、自分たちでできることがしたいと思いました。コジマさんたちが帰るときに、コジマさんはこう言っていました。

「できるだけ、たくさんの方々の行事に参加してください。」

この言葉に、ぼくは、地域の行事にたくさん参加したいとも思いましたが、自分たちのできることをしたいとも思いました。わけは、ぼくたちは、いつも地域の方々に支えられています。その分、僕たちも、自分ができるとことをしたいと思ったからです。

このしめ縄づくりをとおして、地域の方々はとてもやさしいなと思いました。ですが、書いて終わりではなく、行動に移し、今度はぼくたちが地域の方々に支えたいなと思いました。

「2年間の空白」 春日中学校 3年 眞野 栞那

新型コロナウイルスが蔓延する中、始まった中学校生活だった。コロナ禍が始まって2年経つ今でもその影響を受けるが、今年は多くの地域行事に参加することができた。

中でも私は、今年の春に行われたクリーン作戦が一番印象に残っている。このクリーン作戦が中学生になって初めて参加した地域行事だった。私は、小学校の頃からよく地域行事に参加していた。6年生の時には子ども役員をして、地域の方々とたくさん交流した。しかし、約2年間の空白を経てしまい、久しぶりにお会いするのが少し怖かった。足を引っ張ってしまったらどうしよう。私のことを知らない人かもしれない…。上手にコミュニケーションを取れるだろうか…。不安や心配ばかり抱いていた。

当日、公民館に集まると、沢山の地域の方々に声をかけていただいた。「おはよう」「久しぶり」と挨拶をしてもらうことで、抱いていた不安や心配は消えていき、地域のために頑張ろうと前向きの気持ちになれた。クリーン作戦は、公民館の周りではなく、いくつかに分かれて行った。自分が担当したのは自分が全く知らなかったところだった。その時に自分が育った「須玖南」のことを少ししか知らなかったことに気づき、知らなかった場所を案内して

いただいたことが心に鮮やかに残っている。掃除をしている時、一緒に作業している地域の方と色々な話をした。学校や部活動の話、小学生の話など、私たちの話をよく聞いていただいたのでとっても楽しかった。また、すれ違った方々に「おはよう」「頑張っているね」「ご苦労様」「ありがとう」と声をかけていた



だくことで、もっと頑張ろうという気持ちが出てきてやりがいも感じることもできた。

私はこのクリーン作戦を通して、地域の方々は私たち中学生や小学生を見守っていただいていることを改めて感じた。また、地域行事にボランティアとして働くことの楽しさ、やりがい、地域の方々と関わり、学ぶことの大切さを感じた。そして、やってよかった、次もまた参加したいと心から思った。

来年は、コロナ対策が少しずつ解けていき、たくさんの地域行事が行われると思う。私が地域行事に参加してたくさんのことを感じたように、多くの人が地域をよりよくしていくことに協力していきたい。

「地域行事のボランティア活動を通して」 春日中学校 3年 眞野 夏帆

コロナ禍で学校行事だけではなく、地域行事も中止・縮小して行われることが多い中学校生活3年間だった。それでも、嬉しいことに地域行事のいくつかに、ボランティアとして参加して、貴重な体験ができた。今までの地域でのボランティア活動や地域の方々との協働活動において学んだこと、成長したことを2つ述べてみたい。

1つめは、話す力がついたことだ。ボランティアで地域活動に参加する時には、自治会の方々や小学生、中学校の後輩など幅広い年代の方々と話すことが多かった。そのお陰で他人と話すコミュニケーション力が身についたと思う。また、私は須玖南地区の部伍長をしていたので、部伍集会等の場面で司会を務める事が多く、自分の一番の課題であった人前で堂々と話すこともできるようになった。

2つめは、人のために何かをすることの楽しさ、嬉しさを改めて感じたことだ。どの地域活動に参加してもこの嬉しさを感じるが、特に夏祭りや地区運動会に参加した時に強く感じた。どちらも、行事に参加してくれた人が多くてかなり大変だったが、行事を楽しんでいる姿や笑顔を見ると、自分自身もとても嬉しかったし、これが「縁の下の力持ちっていうことだろうな」と感じる事が出来た。

この2つのことは、私自身の成長や未来にも繋がっていると思う。来年から高校生になるので、もしかしたら地域行事にボランティアとして参加する場面が少なくなるかもしれない。それでも、今までの地域活動で培った沢山の経験は、高校生活だけではなく社会人になってからも生きてくると思う。これからの毎日の中でも、地域の方々にお会いしたら、感謝の気持ちを込めてしっかり挨拶したり、出来る範囲で行事に参加したりしていこうと思う。

「多様な意見を尊重する」

春日市立春日東中学校 3年 青木 琴音

私が、春日市民として自分の市の課題について考えたとき、一番最初に頭に浮かんだのは野良猫への無責任な餌やりでした。私の家の近所には野良猫が数匹おり、庭にふんをされるのでとても迷惑です。野良猫が多いということは、誰かがえさをやっている証拠です。これを解決したいと思い、市議会アタックで、このことについて討論することを決めました。

市議会アタックでの討論が始まりました。自分の意見を言った後、議員の方から返答があります。私が議員の方の言葉で最も心に残ったのは、「野良猫の問題に関しては私たちも非常にもどかしいです。極端に野良猫をゼロにというわけにもいきませんからね」という言葉でした。なぜなら、政治の難しさをその言葉に感じたからです。野良猫をなくしたいと思う人もいれば、動物はすべて大事にすべきだと考えている人もいます。多種多様な考え方が社会の中にはあります。すべての意見を尊重していたら、極端な行動を起こすことはできません。課題を解決するためには、ゆっくり時間をかけて、より多くの方が納得する方法を探る必要があることをこの市議会アタックで学びました。

私が、野良猫の問題解決のためにできることは、議員の方に意見をぶつけることだったと思います。議論を尽くし終えた今、私が起こせる行動はもうあまりないですが、今後同じような機会があるときに、気を付けたいことは、自分とは違う意見を尊重することです。それが、人々と共生していく上でとても大事だと思います。



「市議会アタック」

春日市立春日東中学校 3年 水田 紗貴

先日、私たちの学校に、春日市議会の議員の方々が来てくださった。「市議会アタック」のためだ。「市議会アタック」とは、総合的な学習の時間の一環として、春日市の課題について調べ、その解決策を議員の方々に直接提案するというものである。この学習で、私たちの班は、市営バス「やよい」の運行の効率化をテーマに掲げた。インターネットを活用して調べていくうちに、「バスから大型のハイブリット車に変更してはどうか」「予約制にして、それをもとに運行のルールや時間を決めてはどうか」という意見が出てきた。

当日、それらの意見についてまとめたものを、来てくださった議員の方に提案させていただいた。議員の方は、私の話をうなずきながら聞いてくださり、

「持ち帰って検討します」

とおっしゃった。私は、自分たちの声が市を変えるかもしれないということに大きな達成感を得ることができた。

今回の取り組みをとおして、私は、自分が気付いたことに不満を持つだけでは何も解決できないこと、その意見を、解決策を踏まえて実際に声を上げ提案することが大切だということを学んだ。

これからは、周囲を見て

気づいたことを積極的に発信していこうと思う。



『春日市』の一人として」

春日市立春日東中学校 3年 西村 琉良

僕は、「春日市」という市に住み始めてから9年目だ。人生の半分以上をこの春日市で暮らしている。生活の中で僕は、春日市の良いところにか目を向けていなかった。だから、「春日公園は楽しい」や「あそこには皆で遊べる場所がある」などの良いところはある程度知っているつもりだ。学校の活動で、地域を見



つめる機会があった。その時、地域を今よりも住みよい街にすることの難しさを知った。それは、なかなか自分の街の課題や改善すべきところが見つからなかったからだ。春日市をよりよくしようと日々努力している市長や市議会議員などの市の役員のすごさを知った。あなたが、あなたの住んでいる街の一人として、自分の街をよくするためにできることは何かあるだろうか。その答えを僕は、市議会議員との意見交換の場で知った。

僕は、登下校に使う道が狭く、車と車の衝突や、人と車の接触の危険が高いので改善してほしいという意見をぶつけた。その質問の返しに僕は驚いた。

「1回整理すると元に戻すことは難しい。その道を使うすべての住民の賛成が必要だ」と言われたのだ。その時僕は、住民の要望と地域の政治との壁の厚さを知った。いくら住民が賛成しようとも、一人でも反対がいたらその願いはかなわない。住民が全員賛成しようとも、市がその改善にお金を出さなければ願いは実現しない。このようなことを僕は、市議会議員との意見交換で大いに知ることができた。

今、一春日市民として、中学生という立場で、春日市を大きく変えることは難しい。財政やそのルール、住民皆の願いはわからない。だからと言って、地域を変えることをやめてはいけない。僕が、僕の住んでいる街の一人として自分の街をよくするためにできることは何かあるだろうか。それは、地域をよく見て、聞いて、よく知り、地域の長所、短所をあげ、なぜ長所なのか、なぜ短所なのかを考え、長所の理由として挙げられるものに近づき、短所の理由を挙げられているものから遠ざかるようなことであふれる街にする。そのために、地域のためになる簡単なことからすぐ行動し、その行動が地域の、どんなためになるのかを考えること、それが僕は大切だと思う。僕もそのような行動をこれからとっていきたい。

第46代生徒会執行部のボランティア隊の隊長を務めた大森柚葉さんの作文を紹介いたします。

第(3)学年(1)組 (氏名 大森 柚葉)
(題名 「ボランティア活動を通じて成長したこと」)

私は1年間、ボランティア隊隊長として数々のボランティア活動に自主的に参加してきました。そこで大きく成長したことがあります。それは、何事にも自主的に取り組むことができるようになったことです。

私は元々、呼びかけをすることにとても苦手意識があり、近くの人への声掛けしかできていませんでした。そんな私を変えてくれたのがボランティアです。ボランティア活動を通して、積極的に動く力、観察力、コミュニケーション能力が身につきました。そのおかげでクラスを超え、学校全体にまで呼びかけをすることができるようになりました。やりがいを感じられるだけでなく、自主性・積極性が身につくことも、ボランティアのよさの一つだと思います。

このように、ボランティア隊隊長として1年間、たくさんのことを学ぶことができました。高校でもこのボランティア精神を忘れずに、誰かのために働くことのやりがいをたくさんの人に伝えていきたいです。

◎ボランティア担当教員より

コロナ禍で、ボランティア活動ができない期間が続きました。しかし今年度は、少しずつではありますが、地域行事が再開し、活動の幅を広げ、地域の方々との交流を深めることができました。数年ぶりの活動は例年とは違った動きも多かったです。その中でも、大森柚葉さんは、新しいことにも恐れずに挑戦していきました。地域の行事を、その地区に住んでいる生徒が参加しやすいように、地域集会を活発に行い、地域リーダーとの連携を密にしました。多くの活動から、様々な力を身につけ、それを学校生活に繋げていくことができました。これからは彼女は、今までの活動で培ったボランティア精神で、何事にも努力を積み重ねていくことだと思います。

そして、これから彼女の功績を後輩が引き継ぎ、伝えていきます。そうして、地域と学校と家庭をつなぐ架け橋となる存在が増えていくように感じます。



春日市立春日西中学校 <生徒の作文紹介>

地区リーダーを務め、地域のために多くの活動を行った宮崎大宙さんの作文を紹介いたします。

第(3)学年(5)組 (氏名 宮崎 大宙)
(題名 「市民性とは」)

僕はこの作文を書くことになった時、「市民性」という言葉の意味を知らなかったので、ネットで調べてみました。「市民性」とは、「よりよい社会の現実のために、周りの人と積極的に関わろうとする意欲や行動のことを」を意味するそうです。

僕は考えました。市民性が中学校の教育とどう関わってくるのだろうか。考えた結果、主にボランティア活動を通して、中学生の市民性を育成しているという結論に至りました。

僕もボランティアにはよく参加していました。自分が住んでいる地区のボランティアにはほとんど参加していたし、住んでいない地区のボランティアにも友達に頼まれたときに参加していました。その中で強く印象に残っているのは、今年の10月頃に下白水南地区で行われたお祭りのボランティアです。友達と一緒におやじの会の屋台を手伝うことになったのですが、おやじの会のみなさんも、屋台に来てくれるお客さんも僕たちに優しく、温かく接してくれました。僕も来てくれるたくさんの人と明るく話すことができたと思います。

「市民性」と聞くと、難しく感じてしまうけれど、このように人と人がお互いを尊重し合うことが大切なのだらうと思います。

僕は人見知りで、人と話すのは得意ではないけれど、これから高校生になっても積極的にボランティアに参加したり、地域のためにできることをやったりしようと思います。

◎ボランティア担当教員より

今までのボランティア活動は、地域からの要請が入ると参加者を募り、地域の方の指示に従って活動を行っていました。今年度は、地域行事に参加するだけでなく、参画することを目標に活動を行ってまいりました。作文でも挙げられた、下白水南地区の秋祭りでは、コロナウイルス感染拡大防止のために中止になった夏祭りの代替行事として行われたものです。春日西中学校ボランティア隊のスペースを設けていただき、自ら企画、運営を行い、屋台の盛り上げの中心となりました。また、白水ヶ丘ウォークラリー大会では宮崎大宙さんをはじめ、3年生を中心に地域行事を作り上げました。生徒自ら地域行事を企画する中で、

よりよい地域の実現のために周りの人と積極的に関わろうとする意欲や行動力が高まったと考えられます。今後さらなる活動を通して生徒の「市民性」を高めていきたいと感じます。



「白水ヶ丘健康ウォークラリー大会」の取組から

本校では、コミュニティ・スクールの取組の一環として、生徒の地域ボランティアの積極的な参加を促している。そのため、年間を通して様々な地域行事にボランティアとして参加し、地域活性化および地域との連携を深めるとともに、学校外でも生徒が活躍をしている。

今年度は、これまでのボランティア活動から主体性をもった「地域参画」を推進する活動に力を入れてきた。その一つが、生徒が当日のボランティアだけでなく企画から運営まで一貫して行った白水ヶ丘地区の「健康ウォークラリー大会」である。10月16日（日）に実施をされたこの行事は、夏休み期間中の8月から実施に向けた会議が繰り返し行われてきた。白水ヶ丘地区に住んでいる3年生の生徒4名が代表として、毎年実施してきた大会内容をもとに企画運営を担った。中学生による企画運営は、初の試みとなったが積極的に意見を出し合い様々な工夫を凝らした内容となった。以下の内容は、生徒が自主的に協議会を開き、大会に備え話し合いを重ねたものである。

<企画・運営内容>

- ①ウォーキングコースの確認
- ②クイズのキーワードの設置場所
- ③ウォークラリー中のクイズ内容
- ④当日の人員配置や配置場所の選定



【大会運営に関する生徒の協議会の様子】

①ウォーキングコースの確認については、どれぐらいの時間で回ることができるのかを確認したうえで、②キーワードをどこに設置をするのか、どのような形で設置をすれば参加者が楽しむことができるのかを考えた。また、③クイズの内容に関しても単純にクイズを解くのではなく、実施をした白水大池公園の特色を生かして意外な発見ができるよう、公園の中にある建物やモニュメントなど普段見落としているようなものを活用した。そのため、企画運営に携わった生徒が実際に公園を何度か訪問し、④の人員配置などの計画を一から作り上げた。

これまでの生徒の大会への参加は、地域の方々が作り上げた大会を支えるサポーターのような位置づけであった。しかし、本年度の取組においては大会を運営する一員として主体性を持ち、地域を支える立場にあることを理解し活動に計画の段階から参加する「参画」へと変化をしている。この地域の行事へ「参画」することを通して、生活をしている地域という認識から、地域を支える一人の「市民」としての自覚が養われていると考える。実際に当

日ウォークラリー大会に参加をした地域の方々から、「中学生がここまで企画・運営にまで携わり大会を盛り上げていることに驚いた」、「クイズなどのアイデアや工夫がすごい」といった声が多く寄せられた。

自ら企画に携わり、運営まで行い当日の様子や楽しむ地域の方々の姿に、活動を終えた生徒からは大きな達成感と充足感を感じることができた。



【クイズのキーワードを設置する生徒】

実際に運営に携わった生徒からも、「準備期間中はとても大変だったが自ら作り上げた大会が成功して、頑張って取組んだ甲斐があった」と感想を聞くことができた。



【ウォークラリー大会終了後の生徒と地域の方々】

地域との関わりについて、ボランティアとしての枠組みを越え、主体性のある地域の一人として地域行事や地域運営に「参画」していくことが「市民性」を養い郷土愛の涵養へとつながっている本活動を通して感じる事ができた。白水ヶ丘地区以外の泉地区では夏祭りや地域運動会の企画運営、上白水地区では今後のどのような地域行事をしたいかなど、生徒が地域行事の企画・運営に会議から携わる取組が行われている。「学校から参加を促す」から、生徒が「主体性をもち積極的に地域に参画する」ことで、地域に関わっていくことの大切さや重要性を認識し「市民性の育成」につながっていくと本活動を通して感じる事ができた。コミュニティ・スクールとして、今後も生徒とともに「市民性」が養われるよう生徒が主体的に活動できるよう、地域との関わりが深まるよう取組を推進していきたい。

本校における市民性の育ちについて

コミュニティスクール 春日市立春日南中学校 3年生地域訪問【塚原台】地区
3年(2)組(12)番 名前:小林 楓加

本校では、総合的な学習の時間を活用して1~3年で自分たちの住んでいる地域の「現在・過去・未来」を知り・創造する学習活動に取り組んできた。現3年生は、コロナ禍で十分な地域との学習活動はできなかったものの、3年生での「感謝の会」次のような感想を残している。今後の地域での活躍が期待できる。

コミュニティスクール 春日市立春日南中学校 3年生地域訪問【糸ヶ丘】地区
3年(1)組(27)番 名前:(東 栞)

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましよう。

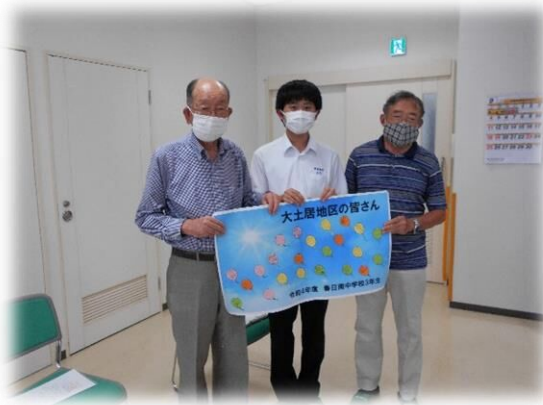
改めて地域の方に感謝を伝えることで、地域の方に支えられているなと強く感じました。地域の方がおっしゃった「おいあさま」や「ピンチはチャンス」という自分を奮立たせる言葉を胸に込めてこれから生活していこうと思いました。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましよう。

僕が小学生の頃から樋口病院の前の信号で、歩道幅を広く保つている方が、いつも横断歩道を渡るたびに、「おほよう」「いってらっしゃい」とおたがい言葉をかけてくれた。つい最近横断歩道をわたるとき、横断歩道に「おほよう」と書いて、おほいって感じました。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましよう。

これから先は今まで支えられたぶん僕達が恩返しをする番だと思、いろいろ積極的に地域行事に参加して、糸ヶ丘を笑顔にする場所にしていこう。



1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましよう。

自分自身で以上に地域の方の支えを受けています。今回、会合がなくて良かったが、副録の方からの話もよく聞けました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。地域行事や公園での活動などもあったので、今回も積極的に参加して楽しみたい。いろいろなお話を聞けたらいいなと思う。地域の社会性を伝えてくれた地域に感謝の意を感じています。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましよう。

いろいろな方の話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましよう。

いろいろな話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。

コミュニティスクール 春日市立春日南中学校 3年生地域訪問【松ヶ丘】地区
3年(3)組(31)番 名前:(平山 愛)

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましよう。

今回は、私たちの専を見守ってくれていた地域の人にこう言った形で感謝の気持ち伝えることができて良かったと感じました。これからいろんな場面や会、お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましよう。

印象に残っているのは、お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。お話を聞いて、地域のことをよく知ることができて、地域に支えられているなと感じました。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましよう。

地域のことに、自分もできることをがんばりたいし、地域の人に、何かと伝えたいし、まだまだ子どもだけれど、うちは大人になろう。地域について考えていきたいです。これからもいろいろな所で関わりたいです。

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましょう。

今回土地或訪問期に行き、感じたのは少子高齢化が進んでいると感じました。白水池は3年生がたの8人で中学生全員行きまで多くないと思ふ。これからほとんど高齢化が進んで行くと思うから僕達が高齢者の方々を支えていかなければいけないと思ひました。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましょう。

これまで地域の方々にたくさん支えてもらっていました。特に印象に残っているのは小学校の時毎朝いつも学校に行くまで見守ってくれて、毎朝あいさつをしてらしてても元気をもらっていたこと。今でも朝会とあいさつをしてらしてても元気が出ます。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましょう。

これから土地或社会の一員として、今までたくさん地域の方々に支えてもらってきたので、これから若い僕達が地域の方々を支えていけるように頑張りたいと思ひます。

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましょう。

今回の地域訪問をふりかえって、感じたことは地域の方々の優しさを改めて感じました。俱持さんや毎朝雨の日も下さして、夏祭りや冬で焼きそば色んな準備をしてくださったおかげで楽しめたことに気づくことが出来、感謝を伝えました。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましょう。

これまで地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることは、以前に天神山を歩いたとき、大工屋の歴史について色々な事を知ることが出来たこと。これからの大工屋地区のあり方についてもしっかり考えていくことも印象に残りました。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましょう。

少しずつ成長していく上で自分の育った地域では働けるけど、少しでも大工屋地区に貢献できるように、これからの生活で地域の方々のために何かをしてみたいです。

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましょう。

今回の土地或訪問で、学校として地域と関わることが最後になると思うととても寂しかった。最後に「感謝の会」という形で、自分の気持ちを伝えることができて本当に良かった。これからは地域の方々の感謝と味わった達成感を忘れずに生活し、惣利のためにできることを探したいと思う。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましょう。

今まで自治会長の「あなたたちが大人になったとき、ここがあなたたちの故郷になるんだよ」という言葉にひかみ、様々な行事、手伝いに参加してきた。自分が住む地域をよりよくしたいという考えをもつ方々の優しさに憧れた。大人になっても、この気持ちを、かけていた言葉は忘れたいと思ふ。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましょう。

地域さんが活動を通して、「地域こうけん」と「地域さんか」の違いについて考えたことがある。手伝いに参加すると、行事のときにはお客さんとしてではなく、同じ気持ちで働く仲間として扱われる。やる気や活気にあふれる大人の方々の一員になれたように、嬉しく地域をつくる一員という意識を一人一人が持つことが大切だと考える。

1. 今回の地域訪問をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましょう。

今回、大工屋公民館を訪れて、館長さんやその周りの方々の優しさを改めて感じました。俱持さんや毎朝雨の日も下さして、夏祭りや冬で焼きそば色んな準備をしてくださったおかげで楽しめたことに気づくことが出来、感謝を伝えました。

2. これまでの地域との関わりをふりかえり、印象に残っていることを書きましょう。

以前に大工屋を歩いたとき、大工屋の歴史について色々な事を知ることが出来たこと。これからの大工屋地区のあり方についてもしっかり考えていくことも印象に残りました。

3. 地域社会の一員として、これからの地域との関わりについて自身の考えを書きましょう。

少しずつ成長していく上で自分の育った地域では働けるけど、少しでも大工屋地区に貢献できるように、これからの生活で地域の方々のために何かをしてみたいです。

「私の街、春日原」

春日市立春日野中学校 2年 奥村 そら

だんだんと気温が下がってきた11月のある日。私は、秋のクリーン作戦に参加した。私の住んでいる地域では、各自自宅からゴミ拾いをしながら公民館へ集合という内容だった。自宅から公民館まではほんの数メートル。まず驚かされたのは、ごみの量だ。普段友達と何気なく会話をしながら通る道も、気づいていなかっただけで案外多くのごみが落ちていた。公民館で集まったごみは、ゴミ袋何袋分という多さ。ほんのちょっとずつでも集めるとすごい量になり、「塵も積もれば山となる」とは、まさにこういうことを指すのではないかと思った。



私たち中学生は、ゴミ拾いをしに行っただけであったが、同じようにボランティアをしてクリーン作戦に参加していた地域の方は多くいた。例えば、ご褒美としてメロンパンやジュースを配ってくれる人。それぞれの持ってきたゴミ袋をまとめてくれる人。子供と一緒にゴミを拾ってくれた人など。朝早いから大変だったはずだ。しかし、地域の方はボランティアだけでなく、みんなに笑顔で挨拶をしてくれていた。これまでの夏祭りや餅つき会などのイベントでも思ったが、春日原ではたくさんの年代の人がそれぞれ支えあっている。笑顔やあいさつの飛び交うとても温かい街だなと感じ嬉しくなった。

私は、クリーン作戦をとおして気づいたことから、これからも地域の役に立てることをしていきたいと思った。できることは少ないかもしれない。しかし、誰か一人だけでも笑顔にできるように、これからクリーン作戦や地域の行事に積極的に参加していきたい。そして、普段からも明るく元気なあいさつや、気づいた時にはゴミ拾いなども行っていきたいと思う。春日原をさらに笑顔あふれる街にするために。私を育ててくれたこの街にめいっぱい感謝を伝えていくために。

「あんどん祭りをとおして」

春日市立春日野中学校 2年 園部 由季



私は、あんどん祭りをとおして、わかったことが主に二つあります。

一つ目は、地域の人とコミュニケーションをとったりできるということです。普段はあまり話す機会のない年配の方などいろいろな話することができます。また、自分と違う年代の方と話すことでいろいろなことが知れて楽しかったです。

二つ目は、地域行事を地域全体でつくられているということです。今回のあんどん祭りの手伝いには、小学生、中学生、おやじの会の方々、ボランティアの方々などいろいろな人が参加していました。当日参加していなくてもあんどんを作ったりしている人たちもたくさんいて、改めて地域のいろいろな人たちの協力があって、こういう行事ができていたんだと思いました。

最後に、学校行事などの時に、地域の方々がいろいろ協力してくださったり、地域の清掃や行事を開催してくださったりしてくれているので、会ったらあいさつをする、ボランティアに積極的に参加するなどして少しでも恩を返し、地域貢献ができるようにしたいです。そして、少しでも良い地域にできるよう、自分のできる範囲で頑張ります。

「ずっと」

春日市立春日野中学校 3年 山崎 心花

あなたは、地域行事に参加したことがあるだろうか。私は、今まで地域のクリーン作戦などに参加したことがなかった。しかし、今回は中学校最後のクリーン作戦だったため思い出づくりの意味も込めて初めて参加した。正直私は、朝早く起きることが辛くて行くときはこの行事にあまり乗り気ではなくなっていた。

私は、春日神社から地下道を掃除することになっていたため集合場所に行くときも、地下道を通って行った。すると、まだ子どもたちが来る前なのにも関わらず沢山の地域の方々もう掃除を始めていて驚いた。そして私が「おはようございます」と少し小さめの声で言うと「おはよう」や「今日はよろしくね」など、とても温かい言葉をかけてくださった。その時に私のあまり乗り気でなかったクリーン作戦への思いが少しずつ変わっていった。

そしていよいよ、集合場所で説明などを聞いた後、掃除の時間になった。すこしドキドキしながら地下道へ向かうと「お姉ちゃん、こっちおいで。ちょっと袋貸してね」と話しかけてもらい、緊張が一気にほぐれた。



そして自分からも何かしようと思った。

ほうきで落ち葉を集めているときにも笑顔で話しかけてくださりとても掃除のしやすい雰囲気になっていた。

今回の活動を受けて、家で振り返りを書く時には、今までなんで参加しなかったんだろうと思うほど、地域の方々と強いつながることができとても温かい気持ちになった。さらに、今までは挨拶でしかかかわることができなかつた方々とも、あいさつに一言加えることができるようになった。これから、高校に行き地域の方々とお会いし、かかわることが少なくなってしまうかもしれない。でもいつかまたお会いした時は、今回の感謝の気持ちを込めて、元気に笑顔で私からあいさつしたいと思う。

題 共に創る地域自治

(須玖北 地区)

〈須玖北の活動〉

前期の活動

- ・春のクリーン作戦
- ・北中地域集会
- ・地区自主防災学習会
- ・北中校区のわあ!! 事業など

後期の活動

- ・須玖北地区運動会
- ・秋のクリーン作戦
- ・須玖北地区文化祭
- ・わあ!! 餅つき大会
- ・どんど焼きなど

〈力を合わせる99くの人々〉

- ・地域の方々・隣組・隣組長
 - ・シニアクラブ・育成会・民生委員
 - ・少年補導委員・小中学校
 - ・福祉ボランティア・自治会役員
- などたくさんの人たちが関わっている!

須玖北地区は...

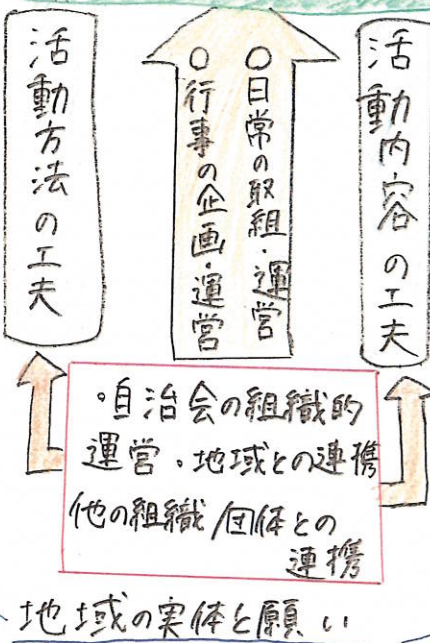
「共に創る地域自治」と
「私たちのまち意識の高まり」
を目指している!

〈須玖北地区について〉

- ・弥生の里(村の中を流れる川・豊かな土地)今も発掘調査が行われている。
- ・春日には、五ヶ村があった。
- ・須玖村→須玖区→須玖北区→須玖北地区と変化。
- ・位置→春日市の北部、福岡市に隣接
- ・人口→須玖北地区...4318人 / 春日市...112,978人

〈須玖北地区のコミュニティ力向上〉

- ・安心・安全な地域づくり
- ・人がつながる地域づくり



〈私たちが地域行事に参加する理由〉

- ・市民性の育成
- ・帰属意識
- ・自己有用感
- ・責任感
- ・社会性 など

〈コロナ禍に北中生ができること〉

- ① 行事に参加すること。
- ② 参加体制を整えること。
- ③ 地域の人、もの、ことについて学ぶこと。

行事に行けなくても、心は参加したつもりでいること!

〈今後について〉

- ・意識づくり...自分たちのまち、自分たちでつくる活動という意識。
- ・活動づくり...目的に沿った活動内容と方法の工夫。
- ・安心安全づくり...高齢の方、障害を持たされている方等への安心づくり(災害時等)
- ・伝え方の工夫...願いを伝え、99くの方々への参加呼びかけ。(広報紙・掲示板・HP)

〈須玖北地区について調べて思ったこと・感じたこと〉

1つの地区のためだけに、たくさんの方々が関わっていて、たくさん行事があることに驚きました。地域活動には、地域を盛り上げるためだけではなく、自分たちも成長させることができるんだなと思いました。前期では、地域行事にあまり参加することができなかつたので、後期では積極的に地域行事に参加をしていきたいです。

題

(岡本)

地区

- 前期の行事(振り返り)
- 5月8日 春のクリーン作戦
- 6月11日 芋苗植え
- 6月19日 北中校区ふれあい事業
- 7月30日 夏祭り
- 8月7日 とんかん祭り(中止)
- 9月17日 敬老祝賀会(中止)



行事に参加して、感想
小学生にしていたことと少し違って、初めて知ることも多く、先輩からいる人なことを教えてもらいました。地域について前よりもっと知ることができました。

- 後期に行われる行事
- 10月16日 芋掘り
- 11月6日 岡本スポーツ大会
- 11月13日 秋のクリーン作戦
- 12月11日 餅つき大会



○ なぜ地域行事に参加するのか?

市民性の育成

地域に任んで安心して過ごす

帰属意識

必要とされ、役に立つ

自己有用感

地域の人も人分たちも大切にされている

責任感

自分に与えられた役割を最後までやりとげる

社会性

人の関わり方などが知れる



- 自分の任んでいる地域について今よりもっと知ることができるよう
- 地域と人との関わりをもつことができる
- 自分の任んでいる地域の公園や公民館をきれいにすることで、みんなが安心して住めることができる。

○ コロナ禍に北中生がでること!!

- 地域の行事に参画すること
- 参加体制を整えること

○ 地域の人、もの、ことについてたくさん学ぶこと



—まとめ(これから頑張りたいこと)—

○ 前期の活動では初めて知ることがたくさんあり、先輩から地域の行事について、学ぶことができた。

○ レポートをまとめてから、なぜ地域行事に参加するのかを知ることができた。

○ 後期の行事では、なるべく多くの行事に参加していきたい。そして、地域代表にならなくて、みんなをまとめて、今まで先輩から教えてもらっていたことを生かしていきたい。

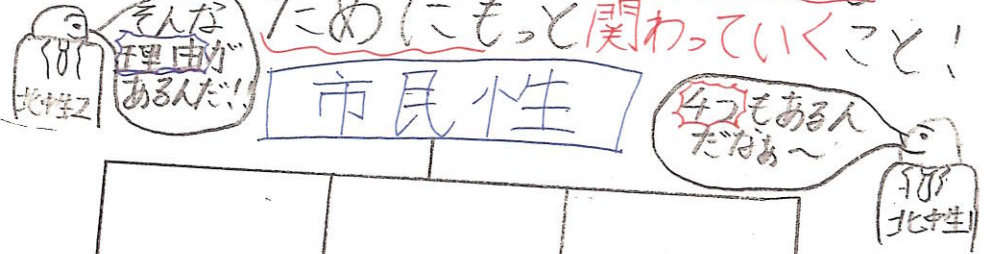
題 須玖北の目標や地域行事に参加する理由 | 須玖北

私たちが地域行事に参加する理由??

須玖北地区の目標や地域行事

それはスツバリ! 市民性を育むため

市民性とは...よりよい社会をつくるためにもっと関わっていくこと!



4つに分けられる!!

- 責任感とは...一生懸命やったり、お力貸して行くこと!!
 - 社会性とは...色々な年れいの人と関わっていくこと!
 - 自己有用感とは...必要とされていることを感じること!!
 - 帰属意識とは...ふるさとに帰るという思い
- ~先生から~
市民性を育てる!!
~ ~ ~

須玖北地区は「共に創る地域自治」を目標にしている!

この創るには「形にならないものをつくる」という意味が込められています!!

また、須玖北地区は、「私たちのまち意識の高まり」も!! 目標にしています!!

~みんなで関わる地域の行事~

- 春と秋のクリーン作戦・ゴミ出しの工夫
- 防災訓練や学習会・地域パトロール
- 地区祭り・運動会・文化祭・食まつきなど

これらの行事に積極的に参加!!して

地域集会后の感想!!
僕はこの地域集会后を終えて、須玖北の歴史や目標など他にも様々なことについて知ることができました。これからは地域行事に積極的に参加して市民性を育んだ!!